



- ☆東海地方数学教育会第62回研究(愛知)大会
- ☆第8回読書会算数・数学授業研究会の御案内
- ☆お知らせ(第2回 算数・数学主任会)
- ☆授業のひとコマ

東海地方数学教育会第62回研究(愛知)大会

平成27年11月6日(金)に、愛知県産業労働センターウインクあいち、名古屋市立笹島小学校、名古屋市立城山中学校で、東海地方数学教育会(愛知)大会第62回研究大会(主題『主体的・協働的に学ぶ算数・数学教育の実践』)が開催され、中学校、数と式分科会の部で栗山茂三先生(竜海中学校)が提案、田中大貴先生(翔南中学校)が司会をされました。中学校の文化祭などお忙しい時期ではありましたが、一緒に参加された市内の先生方、ありがとうございました。

参加された感想

午前中は、小学校・中学校の・高等学校の公開授業が行われ、午後から総会と講演会、そして分科会と続きました。分科会では身近なカレンダーの数に隠された規則性に注目し、数の和が簡単に求められるのはなぜかを考えて発表し合うという授業の発表がされました。「文字のよさを再確認させるとよい」、「 9×9 マスだけでなく、カレンダーのどの部分にも規則性があるということに注目させられるとよい」などの意見、感想が出されていました。生徒が主体的に学ぶことができるような教材研究をすることの大切さを改めて感じました。ありがとうございました。(文責 竜海中学校 島田 麻理)

第8回 読書会 算数・数学授業研究会の御案内

- 1 日時 平成28年1月9日(土) 13:15~15:40 (受付 12:45~)
- 2 会場 岡崎市立北中学校(体育館)
- 3 内容 愛知教育大学附属岡崎中学校、小林克久先生による公開授業
中学校1年生 「立体図形」の授業
パネルディスカッション「数学的な見方や考え方を育む数学的活動の工夫」
パネリスト 六ツ美南部小学校 校長 大西 和夫先生
六ツ美中部小学校 校長 加藤 嘉一先生
六ツ美北中学校 教頭 深津 伸夫先生
司会 葵中学校 畔柳 英徳先生
指導講評 柴田 録治先生(愛知教育大学名誉教授)
三浦 鎌次先生(元三教研算数・数学部会長)

- 4 日程
12:45~13:10 受付
13:15~14:05 公開授業
14:20~14:25 開会行事
14:25~15:20 公開授業の協議(パネルディスカッション)
15:20~15:40 閉会行事 解散

☆多くの方のご参観、意見交換で充実した会としましょう。



お知らせ

☆平成27年度 第2回 算数・数学主任会☆

(日時) 平成28年2月2日(火) 15:30~16:00

(場所) 岡崎市総合学習センター 教育研究室2

※主任会の後、算数・数学学習会「課題学習『図形の調べ方』について」(16:00~16:30)を予定しています。



授業のひとコマ

「平均とその利用(小学校5年生)」実践

教科書5年 P140

本校ではキウイを栽培しています。そこで「平均とその利用」で学習したことを活用して、学校で収穫されたキウイ全体の重さはどれくらいになるかを考えてみました。

まずは、キウイ1個の平均の重さを求める活動を行いました。収穫したキウイの大きさには違いがあり、小さいものは80g、大きいものになると200g近くもありました。そこで、「キウイ1個分の重さの基準はこれくらいのキウイでいいかな」と聞いてみました。すると、

「そんなに小さくて軽そうなものばかりじゃないよ」という発言が続きました。次に大きなキウイを示して「このキウイならいいかな」と聞くと、「そんなに大きくもないよ」という声。結局「基準にするキウイは、どれがいいのかよく分からない」ということになりました。

そこで「平均」についての学習を振り返り、平均を用いてキウイ1個分の重さを設定することにしました。平均の求め方は、 $\text{合計} \div \text{個数}$ ということから、子供たちが一人ずつ無作為にキウイを取り、それらの平均を求めました。すると、キウイ1個の重さは約105gでした。キウイ1個の平均の重さから、全体の重さは $\text{平均} \times \text{全体の個数}$ の式で求められることを確認して、全体の重さを求める活動に入りました。最終的に収穫されたキウイ全体の個数を計算すると約4200個もありました。全体の重さを求める式に当てはめてみると、 $105 \times 4200 = 441000 \text{ g}$ 。だということを確認しました。子供たちは、全体の重さは、400kgを超えていたということが分かり、驚くと同時に、平均という考え方の有用性を感じた1時間になりました。

(文責 恵田小学校 藤田 宏)



「三角形と四角形(小学校2年生)」実践

教科書2年下 P44

前時で、三角形を2つに切って、①2つの三角形を作る活動と、②三角形と四角形を作る活動を個人追究で進めたところ、予想していたよりも時間がかかるだけでなく、悩んで出来なかったり、違うところを切ってしまう子が多かったです。

そこで、四角形を2つに切って①2つの三角形を作る、②2つの四角形を作る、③三角形と四角形を作る、これら3つの活動を進める本時の学習には、グループ活動を取り入れました。まず、1人1枚ずつ四角形の紙を配り、①から③のどれを担当するかを決めました。どこで切ればよいかを考えて線を引いた後、グループのみんなを確認し、ノートにまとめました。その後、ノートを拡大提示機でテレビに映し、切り方を共通理解できるようにしました。

あわせて説明する力も育てるために、「どのように切ればよいかを、辺と頂点という言葉を使って説明ができる人」とキーワードを示しました。子供たちは、①は頂点と頂点を結ぶ直線を引けばよい、②は辺と辺を結ぶ直線を引けばよい、③は辺と頂点を結ぶ直線を引けばよいということを言葉で説明することができました。多くの子が自分の切った紙と見比べながら、その説明を聞いて確かめることができていました。前時より自信をもって活動を進め、理解を深める姿が見られました。

(文責 根石小 神谷 夕佳)

